

poco a poco

Chor Klang 日比谷 演奏会

(旧 JFE スチール東京混声合唱団)

W.A.モーツァルト

Missa brevis へ長調 KV192

周藤 諭

Missa 混声合唱とピアノのために

B.チルコット

A Little Jazz Mass (小さなジャズミサ) *

J.ブラームス

Gesang der Parzen (運命の女神の歌) op.89

Schicksalslied (運命の歌) op.54

Nänie (哀悼歌) op.82

指揮

福田 光太郎

ピアノ

粥川 愛

ベース

澤田 知世 *

パーカッション

篠崎 智 *

2026 年

1月18日 (日) 14時開演 (13時30分開場)

小金井 宮地楽器ホール 大ホール

JR 武蔵小金井駅南口徒歩 1 分

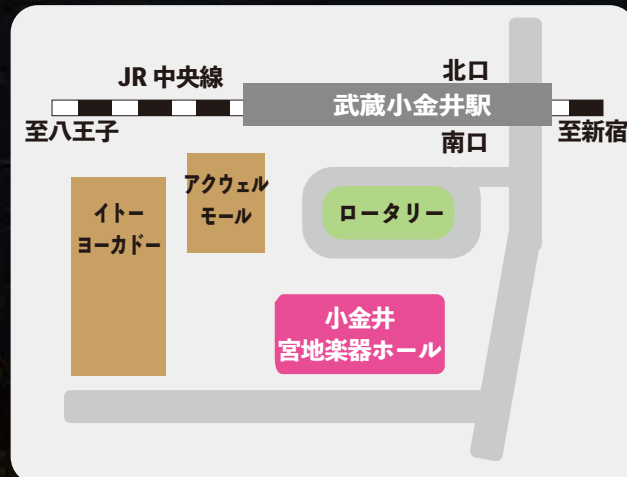
〒184-0004

東京都小金井市本町 6-14-45

TEL 042-380-8077 FAX 042-380-8078

全席自由 入場無料

お問合せ chorklanghibiya@gmail.com



出演者のプロフィール

福田 光太郎 Kotaro FUKUTA



1981年生まれ、富山県出身。東京藝術大学卒業。東京音楽大学大学院およびウィーン・コンセルヴァトリウム音楽大学にて指揮を専攻。佐渡裕、加納明洋、沙澤安彦、広上淳一、曾我大介、ゲオルク・マルク、トーマス・ドス各氏に師事。また下野竜也、アンドレス・オロスコ＝エストラーダ、ヨルマ・パスラ各氏のマスターコースを受講。すべてのマスターコースにおいて成績優秀者によるコンサートの指揮者に選ばれる。藝大在学中より指揮活動を始め、市民オペラ団体などで副指揮者、合唱指揮者として経験を積む。フジテレビ主催、ニューヨーク・シティ・オペラ共同制作による「世界平和祈念コンサート」の合唱指揮、東京国際芸術協会（TIAA）のオペラ公演、ガラ・コンサート、また現代作品でも国際芸術連盟（JILA）会長、服部和彦氏の作曲個展の指揮者として招かれるほか、東京ディズニーシー15周年"ザ・イヤーズ・オブ・ウィッシュ"イン・コンサートの指揮を担当するなど、多方面で活躍している。近年はミュージカルの指揮も多く「ジキル&ハイド」「アニー」「Endless SHOCK」「ポーの一族」「ジャック・ザ・リッパー」（日本初演）「ミス・サイゴン」「チャーリーとチョコレート工場」「DEATH TAKES A HOLIDAY」「ケイン&アベル」（世界初演）などを担当。

これまでにルハンシク・フィルハーモニー管弦楽団、ルセ・フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、琉球フィルハーモニックオーケストラなど国内外のオーケストラを指揮。平成26年度北日本新聞芸術選奨受賞。

粥川 愛 Ai KAYUKAWA



東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、同大学大学院修士課程修了。文化庁新進芸術家海外研修生、及びポーランド政府給費留学生として渡欧。ワルシャワ国立ショパン音楽大学研究科を満場一致の賛辞を得て修了。

日本モーツァルト音楽コンクール第1位。エウテルペ国際ピアノコンクール（伊）第1位。モーツァルト国際コンクール（奥・ザルツブルク）にて特別賞他、国内外の数々のコンクールで優勝、入賞。ワルシャワとパリで行われたショパン生誕200年記念演奏会に出演。第39回国民文化祭開会式にて、御前演奏。岐阜県文化功績賞（現・清流の国ぎふ栄誉賞）受賞。令和6年度岐阜県芸術文化奨励賞受賞。ソリストとして、藝大フィルハーモニア、東京モーツァルトプレイヤーズ、愛知室内オーケストラ、イェナフィルハーモニー管弦楽団（ドイツ）他、多数のオーケストラと共演。

近年ではソロリサイタルをはじめ、音楽ホール柿落とし公演にてショパンエチュードop.10全曲演奏をはじめとするプログラムが好評を博した他、新日本フィルメンバーとのピアノ五重奏シリーズ、J.S.バッハの合唱作品をバロックピッチで演奏するアンサンブルピアニスト等、多岐に渡り活動。

これまで可知啓子、長野量雄、坪田昭三、山城浩一、エヴァ・ボブウォツカの各氏に、フォルテピアノ（古楽器）を小倉貴久子氏に師事。現在、桜美林大学芸術文化学群音楽専修講師。

Chor Klang日比谷 合唱団紹介

2022年4月に衣替えをして発足した混声合唱団「Chor Klang日比谷」です。「Klang」は、ドイツ語で（快い）音・響きという意味で、団のモットーでもある「poco a poco（少しずつ）、人と響きを大切に」という想いにも通じています。

私たちの歴史は、1969年に「川崎製鉄東京混声合唱団」として幕を開けました。当初の団員22名（女声12名、男声10名）平均年齢23歳！人類初の月面着陸に沸き、巷には「ブルー・ライト・ヨコハマ」が流れ、誰もが明るい未来を信じて疑わない高度経済成長真っただ中の時代でした。その後2003年、鉄鋼他社との合併により「JFEスチール東京混声合唱団」と名を変えました。

現在の団名の「日比谷」はその時の練習場所であったJFEスチール本社の日比谷国際ビル（内幸町）への感謝と敬意を表しています。3年前、永年お世話になった職場から離れ一般合唱団に衣替えをして、墨田区の本所地域プラザBIG SHIPを練習拠点として活動することを決めました。創立から半世紀余、演奏会は6年前の50周年記念（杉並公会堂）をはじめとして、大小合わせて31回を数えます。

2020年からは新たな若き指導者のもと、いい響きを求めて日々励んでいます。古きを訪ね、新しきを知る「Chor Klang日比谷」をどうぞよろしくお願いいたします。

澤田 知世 Tomoyo SAWADA

広島大学教育学部第四類（生涯活動教育系）音楽文化系コース卒業。コントラバスを里かおり、村田和幸、吉田秀の各氏に師事。これまでに（公財）出雲市芸術文化振興財団音楽教育指導員、出雲芸術アカデミー音楽院専任講師（コントラバス、リトミック）として楽器指導やアウトリーチの企画実践等を行う他、ミュンヘン・ザルツブルク・シンフォニーホールプログラムコーディネーターとしてコミュニティプログラムに携わるなど、音楽ホールの教育事業に多数携わる。

東京文化会館ワークショップ・リーダー育成プログラム第5期生、2017年度ポルトガルカーザ・ダ・ムジカ派遣研修生。現在、東京文化会館ワークショップ・リーダー、音楽ワークショップ「オトテバコ」メンバー。



篠崎 智 Satoru SHINOZAKI

富山県出身。東京学芸大学教育学部芸術過程音楽専攻打楽器専修卒業。トッパンホールでのデビューリサイタル以来新作初演、マリンバ演奏など幅広い演奏活動を行うほか、幼児や子供の音楽にも興味を持ち探求を続けている。また、これまでに多くの合唱団とポピュラスステージや打楽器付きの合唱曲などで共演し、好評を得ている。

現在東京家政大学児童学部非常勤講師、Ensemble-sans-limiteメンバー。



JFEスチール東京混声合唱団50周年記念演奏会（2019年11月30日、杉並公会堂大ホール）

